

# 令和3年度 福祉文教委員会 視察報告書

## 1. 視察日程

令和3年7月7日（水） 午前9時30分～

## 2. 視察先及び視察内容

社会福祉法人 富岳会 総合児童施設  
インクルーシブ保育について

## 3. 視察参加者

委員長	<u>黒澤佳壽子</u>		
委員	<u>川上 秀範</u>	<u>菅沼 芳徳</u>	<u>土屋 光行</u>
	<u>勝間田博文</u>	<u>高橋 利典</u>	
委員外議員	<u>高橋 靖銘</u>		
事務局	<u>芹沢 節巳</u>	<u>桐生 守</u>	<u>荒井 祥太</u>

## 4. 視察先対応者

富岳会	理事長	山内 剛	氏
富岳保育園	園長	勝又 愛志	氏
富岳学園	園長	杉山 延江	氏

ほか

## 5. 視察詳細

### 『インクルーシブ保育について』

令和3年7月7日（水）午前9時30分～

於：社会福祉法人 富岳会 総合児童施設

#### 〈視察研修の目的〉

全ての児童が障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で共に保育を受けられることが望ましい。それを実現するのがインクルーシブ保育である。  
富岳会で実施されているインクルーシブ保育の現場を視察し学び、今後の議会活動に役立てることを目的とする。

#### 〈視察先の概要〉

富岳会は富岳保育園と児童発達支援センターである富岳学園を併設し、総合児童施設とした。令和3年4月1日よりインクルーシブ保育を展開し、2つの施設のそれぞれの特徴を生かしながら子どもの多様性に合わせ、保育の枠組みを柔軟に変えて、保育療育を行っている。

## 《視察研修の内容》

### 1 社会福祉法人富岳会理事長山内剛氏による講話

インクルーシブ保育について（概念や先進国の状況と日本の課題等）、また自らの保育療育への思いの講話。



#### 「インクルーシブ保育について」

文部科学省管轄外の厚生労働省管轄である保育園でのインクルーシブ保育がクローズアップされている。インクルーシブ保育とは、子どもの国籍、発達段階、障がいの有無、障がいの種類、年齢などの違いに関わらずどのような背景を持った子どもも排除せずに受け入れる保育であり、全ての子どもが共に育ち共に学ぶ保育をいう。

多くの保育園、こども園がインクルーシブ保育に踏みきれずにいる原因として、保育士の専門的知識の不足、各々の個性の受容の困難さ、障がい児のアセスメントと支援計画の困難さ、危険、トラブルへの対応方法の経験不足、過去に療育したノウハウがない、人材不足等がある。

#### 「インクルーシブ保育のメリットについて」

- ・人にはそれぞれ違いがあることを知ることができる
- ・いじめ、差別がなくなる
- ・助け合いの精神が養われる
- ・多種多様な人たちとの関わり合いを幼いうちから経験できる
- ・発達障がい児は同年齢の子どもとの違いから様々な刺激を受け、成長につながることもでき、互いに相乗効果がある
- ・保育園、保育士も高い保育スキルを身に付けられ、障がい児保育の知識を広げられる

「富岳会のインクルーシブ保育について」

「共生社会・ソーシャルインクルージョンの実現」は富岳会が目指す「赤ちゃんからお年寄り、障がい児までみんなが笑顔で幸せに暮らせる地域社会の構築」である。富岳保育園が行う未来を見据えた個性を伸ばす保育カリキュラムと富岳学園が行っているオリジナルの療育プログラムを同じ生活空間の下で展開している。

## 2 施設内視察 インクルーシブ保育における保育・療育の現場見学

- ・ オールタイム保育・・・一日を通して保育園・学園の子ども達が生活を共にし、大集団での生活を経験する。保育園で発達の気になる子どもは学園での小集団生活で合った療育を受ける。
- ・ サムタイム保育・・・特別な支援を定期的に受けるため、個別的な交流を通して2園の専門性を共有する。
- ・ ちゃむあっぷタイム・・・2園の壁を取り除き、子ども同士の関わりの中で喜びや学びのある時間を自ら展開する機会を設け、互いに多様性を認め合い、思いやりの気持ちを養う。

## 3 ちゃむあっぷタイムの「七夕まつり」の集いを見学

2園の児童が一堂に会しイベントに参加。楽しい時間を共有する。



## 《考 察》

一人も取り残さない社会の実現に向けては、障がいの有無による差別があってはならず、全ての人々が社会の一員として生きる場を提供しなければならない。「ノーマライゼーション」の理念から「障がい者の権利擁護」の取り組みとして一歩前進する必要がある。

富岳会が実施するインクルーシブ保育は、障がいのある子もいない子も共に学び、共生社会の実現に貢献するという考え方であり、今まで分けられていた通常クラスと障がい者クラスの隔たりをなくす社会づくりの一角であるといえる。

講話や視察を通して、ちゃむあっぷタイム等の取り組みを含め、幼い頃から多様な人たちとの関わり合いを経験することにより、互いを思いやる気持ちや助け合いの精神が養われていくこと、人を分け隔てなく受け入れ、共に学び、成長するという人間社会の基本的な在り方を大切にしたい取り組み、さらに、教職員が趣旨を自覚し熱心に取り組んでいる様子や、ひとりひとりに対して常に目を向け、その変化に気付いて対応していく細やかな保育・療育は素晴らしいと感じた。また、全ての人々が支え合い朗らかに前進する強さが必要不可欠であることや個々の教育のニーズがある児童において、同じ場で共に学ぶことを追求する重要性を認識することができた。

この先駆的な取り組みについて、多くの保育園・こども園等がインクルーシブ教育・保育に踏み切れないでいるいくつかの理由があり、その一つが保護者の障がい児に対する知識不足であると考えられる。富岳会が保護者や地域に対し、丁寧に説明し理念を共有した成果は大きく、子どもだけでなく、大人・保護者がその趣旨や目的を理解し学ぶことが必要であり、発達障がい児の受け入れ先があることを子育て世代に正しい知識として認識してほしいと感じた。

また、富岳会がインクルーシブ保育を実施できたことは、以前より2つの施設が隣接し、グラウンド等を共有していたことも要因の一つであったと考えられるが、なんといっても運営者（経営者）の障がい児への理解、正しい知識、思いやり、未来を見据えた洞察力等の情熱が必須であると感じた。インクルーシブ保育に対する意気込みが、行政の縦割りの壁を打ち破り、保育園を管轄する市と福祉施設を管轄する県を動かし、実現させたことの価値は大きい。

インクルーシブ保育の実施を通じ、保護者の大きな心や子どもの素直な心など多種多様な強く優しい心を感じることができ、また、全国に先駆けての実施に委員会としても感謝している。各保育園等の施設がインクルーシブ保育のメリットを認識し、インクルーシブ保育実施の壁や課題を努力して解決し、富岳会に続いて開設されることを願う。そのためには、子どもだけでなく、大人である保護者がインクルーシブ保育の趣旨や理念を理解し学ぶことへの啓もう啓発や小学校において、保育園・幼稚園等での「それまでの学び」を生かした指導、教育を行うことへの議論等の取組みも必要である。行政として開設にあたっての様々な課題解決に必要な支援、援助に加え、議会としても支援、応援すべきである。

